

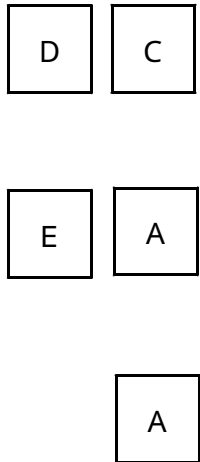
読書感想文は、本を読んで感じたり考えたりしたことを自分の言葉でまとめた文章です。読書感想文には、自分が思ったこと(考えたこと)を、なぜそう思ったか(考えたか)が分かるように書きます。

身に付けると...

その本を深く豊かに読み、いろいろな知識や知恵や経験などを自分のものにすることができます。

やってみよう 「解答と解説」

感想文には、どんなことを書くのかを考える問題です。



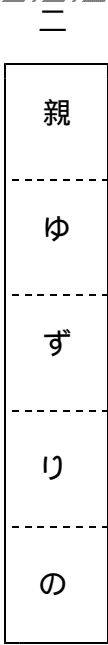
問題文の《感想文》に何が書かれているのか分析するために、感想(A)と、感想の根拠(B)と(E)の大きく二つの要素に分けて考えます。

感想とは、思ったことや考えたことなどのことです。文末は「〜と思った。」「〜と感じた。」などの表現になります。また、これ以外でも「まるで〜のようだ。」など感動を表す言葉で書くこともできます。

問題文の《感想文》を分析すると、まず、坊っちゃんが無鉄砲ぶりを「まるで漫画のようだ」と一言で述べています。これはA「感想」です。次に、「できないだろうとからかわれたら、できると言い張って無茶をする。」と内容を要約していますので、この部分はB「感想の根拠(内容の要約)」になります。続く「文は語句の引用がありますので、C「感想の根拠(小説の表現の引用)」は文末が「〜感じられる」なので、A「感想」と判断できます。このことから、前半①には、主に坊っちゃんの語り口を根拠にした坊っちゃんの性格について、思ったことや考えたことが書かれているということが分かります。

同じように分析すると、後半②には、そんな坊っちゃんの性格を、《感想文》の筆者は、自分の性格と比較した内容で感想の根拠として書いているということになります。感想と感想の根拠の二つの要素を、構成を考えながら組み合わせていくと、感想文の原型ができます。

《感想文》の筆者が注目している小説の表現を考える問題です。



やの文に引用されている言葉、「無鉄砲」や「損ばかりしている」から、感想文の筆者が、小説本文の冒頭文「親ゆずりの無鉄砲で子どもときから損ばかりしている。」に注目していることが分かります。このように、印象に残った表現や言葉に注目すると、感想をもちやすくなり、自分との比較もしやすくなります。

ワンポイントアドバイス

読書感想文には、自分が思ったこと(考えたこと)を、なぜそう思ったか(考えたか)が分かるように書きます。

(問題文の《感想文》を例にとると...)

- 筆者は坊っちゃんを「うらやましい」と思っていることを書いています。
- 「うらやましい」と思う理由を「損ばかり〜からだ。」と述べています。
- さらに、自分の性格と比較をすることで、「うらやましい」と思う理由を補足しています。

